

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋

講演題目	文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア
------	-------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことが本研究の目的である。「文化資源」という概念は、木下直之氏の発案によるものだが、文化芸術を活かした地域の振興、あるいは地域教育とツーリズムという形で、様々な取り組みがされている。その実践として、2018年度以来、焼津小泉八雲記念館（焼津市）、藤枝市文学館（藤枝市）、中勘助文学記念館（静岡市）の3館と連携し、2019年度には芹沢銈介美術館（静岡市）を加えて、駿河の文化施設をめぐる新しい〈文学ツーリズム〉の可能性をさぐる「するが文化の散歩道」ツアー企画を提案・開催。コロナ禍においては、2020年度から4館を巡るスタンプラリーを開催している。

【成果】今年度は、これまでの駿河エリアに加え、湯ヶ島の檸檬忌実行委員会や長泉町井上靖文学館と連携し、伊豆エリアでの活動を開始した。

① 新生第七回湯ヶ島檸檬忌ならびに「前夜祭」への企画・開催協力（5/21-22）
2月に実行委員会とゼミ生を交えて企画の打合せを行い、檸檬忌の前夜祭として梶井の小説に因んだ「闇の絵巻」散歩を実施。22日は、檸檬忌の会場設営・受付などを学生が担当し、細川が「梶井基次郎の〈耳〉」と題して講演を行った。併せて伊豆エリアの資料収集を行った。

② 「するが文化の散歩道 スタンプラリー」台紙パンフの刷新とAR活用の導入、紹介動画並びにノベルティグッズの制作（7-9月）
駿河エリアは、コロナのため、昨年度と同様にスタンプラリーによる「するが文化の散歩道」の継続開催とした。しかし、スタンプ台紙のパンフをLINEスタイルに一新し、併せて昨年度課題としたARの撮影ポイントを導入、紹介動画を学生がグループで作成しYoutubeでアップした。新しい課題に挑戦し、それを実現できたことは大きな成果だった。

③ 「するが文化の散歩道 スタンプラリー」しずぶんツアーvol.5の開催（10/8～12/11）
「静岡新聞」11/7朝刊には写真入り記事で「若者に向け動画、AR活用」の新しいスタンプラリー開催として大きく紹介されている。秋の開催行事として定着しつつあるという手応えがある。

【今後の展望】 県内で文学館同士が連携して行う企画はほかになく、〈文学ツーリズム〉の取り組みはアイデアを出し合う新しい場の創出に繋がっている。スタンプのオリジナルデザインを各館が活用して、マスクケースやマグネットなどのグッズも制作されている。今後、伊豆エリアでの活動も精力的に行い、駿河・伊豆を繋ぐ企画も提案して行ければと考えている。